

# 各務原市及び御岳山における帰化植物の生態

小野木 三郎

## 1. はじめに

戦後の日本経済の高度成長、工業化・都市化にともない帰化植物は急激に種類数・勢力範囲を広げている。奥山春季著「日本植物ハンドブック」日本産植物のリスト表からひろい出すと、55科、541種であるが、本書にもれたものや栽培種の逸出を含めると700~800種にも及ぶと言われている。しかし、岐阜県内における帰化植物の生態はもとより、帰化植物相すら調査されておらず全く空白の状態である。そこで、岐阜県内にみられる帰化植物のリストアップ・資料収集・特定種の全体的な分析調査を進める中で、美濃平野部では各務原市、飛騨山間部では御岳山を調査地を選び、帰化植物の生態調査を行ったので、その実態を報告する。

なお、本研究調査は、昭和54年度文部省科学研究補助金（奨励研究B）を得て行ったものである。植物の同定には、井波植物研究所長井波一雄氏の御指導を賜わり、野外調査には藍川中学校教諭安藤志郎氏の御協力を得た。心から厚くお礼申し上げる。

## 2. 調査地の概況

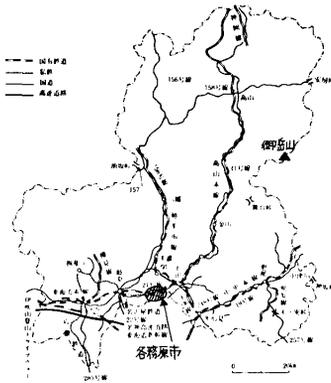


図1 各務原市と御岳山の位置

(1) 各務原市……帰化植物の侵入口である名古屋港・空港をもつ濃尾平野の北端に位置し、南に木曾川が県境となって東西に流れ、北部・東部は標高200~300mのアカマツ~モチツツジ群集を主とした里山地域である。総面積79.52km<sup>2</sup>、昭和48年度の環境庁による自然環境保全調査によれば、平均自然度2.97、畑地水田等の自然度2の地域が50%に達し、山間部(二次自然林)は12.8%、植生のほとんどない市街地造成地は9.9%であった。ところが中京圏のベッドタウンとしての宅地造成化はすさまじく、生産緑地の宅地化・工場用地への転用、里山の宅地造成化が著しく、都市化の波及で緑地は急激に減少している。人口は、昭和35年56,7

19人、45年78,109人、55年115,340人という急増振りである。しかも、現在の航空自衛隊基地は、終戦後アメリカ進駐軍の基地として永く存続したところで、キダチコンギク・アレチハナガサなど、朝鮮動乱時に軍需物資とともに日本に帰化したと考えられるごく新しい帰化種が大群生し、勢力を広げつつあるなど、一次帰化地の条件下にもあり、この面でも注目される典型的な新興都市である。

(2) 御岳山……岐阜・長野県境にそびえる標高3,063mの独立峰で、昭和54年10月28日に有史以来初めて噴火した。日本列島のはほぼ中央に位置し、そのゆるやかな斜面にみられる植物の垂直分布は最も典型的である。しかし、森林の代採・人工林化が極めて広範囲に進められ、岐阜県側千間樽国有林・胡桃島国有林では、標高2,000m近い亜高山帯針葉樹林まで皆伐が進み、幾筋もの林道が入り込んでいる。一方信仰の山として登山客も多く、飛騨側濁河温泉(標高1,800m)までは朝日村・小坂町から舗装道路が通じ、小坂町からは年間を通じて定期バスが通っている。

### 3. 調査方法

どこにどれだけか帰化植物が生育しているかを定量的に把握するために、環境条件の違う草本群落（森林内の場合は林床草本層）を調査地とした。各調査地で、 $1 \times 1 \text{ m}^2$ の方形区を5~10か所設け、出現植物の被度（C）高さ（H）を測定した。被度は沼田の被度階級値を用い、平均値算出には $1' = 0.2 + 0.04$ を用いた。わく数が10か所以内であるため、積算優占度は、頻度を除いて被度・高さから算出した。調査地点ごとに、種類数及び優占度による帰化率を算出した。野外調査は、御岳山では7月23日~8月1日間に、各務原市内では8月20日~9月18日間に、行われた。

ここでは狭義の帰化植物を対象とし、江戸末期から現代にかけて入ってきたいわゆる新帰化植物といわれるものを帰化率算出に用いた。帰化種とは、長田武正著「原色日本帰化植物図鑑」(保育社)同著「日本帰化植物図鑑」(北隆館)に掲載のものをよりどころとした。調査結果の表中、和名の頭に●印のあるものが帰化種である。

### 4. 調査結果

(1) 各務原市内の場合：第1表 休耕畑(那加巾下町)9月17日 10か所

第1表

植 物 名	平均		頻度	相対値		優占度 相対値の和/2
	高さ	被度		高さ	被度	
●ヒメムカシヨモギ	155.5	2.70	100	100	100	100
●オオアレチノギク	143.0	1.10	100	92.0	40.7	66.4
ヨモギ	53.5	0.62	60	34.4	23.0	28.7
●ヒメジョオン	16.4	0.07	50	10.5	2.6	6.6
カタバミ	8.4	0.13	40	5.4	4.8	5.1
ササ属1 sp.	4.0	0.10	10	2.6	3.7	3.2
イヌタデ	7.3	0.03	30	4.7	1.1	2.9
エノキグサ	2.7	0.04	50	1.7	1.5	1.6
コミカンソウ	1.6	0.01	30	1.0	0.4	0.7
ウシハコベ	1.8	0.004	10	1.2	0.1	0.7



出現種10種のうち帰化種は3種で、種類数による帰化率は30%と低いが、ヒメムカシヨモギ、優占度100、オオアレチノギク66.4で、この二

種が圧倒的に優占する空地である。市内のいたるところにみられる空地の植物景観で、優占度による帰化率は80.1%という高率であった。

第2表 土砂採掘空地(三井町)8月20日

第2表

植 物 名	平均		頻度	相対値		優占度 相対値の和/2
	高さ	被度		高さ	被度	
●アレチハナガサ	186.1	3.40	100	100	100	100
●ケアリタソウ	74.0	0.72	60	39.8	21.2	30.5
●オオアレチノギク	58.7	0.32	40	31.6	9.4	20.4
●メリケンカルカヤ	32.5	0.62	60	17.5	18.2	17.9
ヤハズソウ	16.5	0.78	80	8.9	22.7	15.9
メドハギ	36.3	0.22	30	19.5	6.4	13.0
ススキ	29.0	0.24	40	15.6	7.1	11.4

第3表 同左8月25日 両地点とも10か所

第3表

植 物 名	平均		頻度	相対値		優占度 相対値の和/2
	高さ	被度		高さ	被度	
●ヒメムカシヨモギ	123.1	1.32	100	100	100	100
●オオアレチノギク	100.9	0.44	100	81.9	33.3	57.6
ヤハズソウ	17.0	0.86	80	13.8	65.2	39.5
キンエノコログサ	37.8	0.34	90	30.7	25.8	28.3
●アレチマツヨイグサ	29.5	0.12	20	24.0	9.1	16.6
●アメリカセンダングサ	15.5	0.24	30	12.6	18.1	15.4
●アレチヌスビトハギ	9.0	0.20	10	7.3	15.2	11.3

第2表(続)

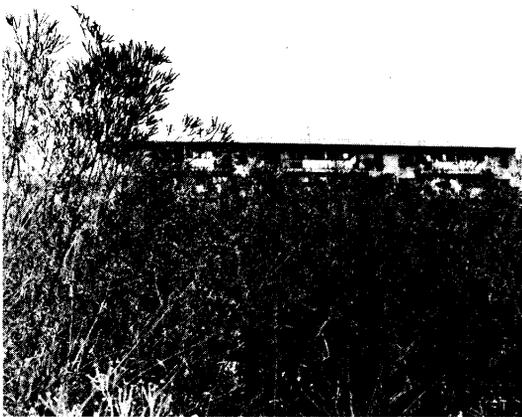
●セイタカアワダチソウ	27.3	0.22	20	14.7	6.5	10.6
●アレチヌスビトハギ	19.6	0.22	20	10.5	6.5	8.5
●ヒメムカシヨモギ	20.6	0.18	50	11.1	5.3	8.2
ヌ ル テ	12.2	0.14	30	6.6	4.1	5.4
ツ ル マ メ	13.5	0.12	20	7.3	3.5	5.4
●アレチマツヨイグサ	9.5	0.10	10	5.1	2.9	4.0
●ヒロハギシギシ	9.0	0.10	10	4.8	2.9	3.9
●オオニシキソウ	5.8	0.14	40	3.1	4.1	3.6
●シマスズメノヒエ	9.8	0.02	10	5.3	0.6	3.0
ナワシロイチゴ	7.8	0.04	20	4.2	1.2	2.7
●シロツメグサ	4.6	0.09	60	2.5	2.6	2.6
ヨ シ	4.0	0.10	10	2.1	2.9	2.5
アキノエノコログサ	4.0	0.02	10	2.1	0.6	1.4
ツ エ ク サ	3.6	0.02	20	1.9	0.6	1.3
アカメガシワ	3.0	0.02	10	1.6	0.6	1.1
ネ ム ノ キ	2.9	0.01	20	1.6	0.3	1.0
イ タ ド リ	2.5	0.02	10	1.3	0.6	1.0
カ タ バ ミ	1.7	0.02	20	0.9	0.6	0.8
●マツバゼリ	2.6	0.004	10	1.4	0.1	0.8
●ヒメジョオン	1.4	0.02	20	0.8	0.6	0.7
Carex 1 sp.	0.8	0.02	10	0.4	0.6	0.5
オヘビイチゴ	0.6	0.004	10	0.3	0.1	0.2

第3表(続)

●ケアリタソウ	13.4	0.10	20	10.9	7.6	9.3
●アレチハナガサ	15.5	0.04	20	12.6	3.0	7.8
エノコログサ	13.0	0.06	40	10.6	4.5	7.6
●ヒロハホウキギク	15.4	0.02	20	12.5	1.5	7.0
ツ ル マ メ	7.5	0.10	10	6.1	7.6	6.9
メ ヒ シ バ	10.4	0.06	60	8.4	4.5	6.5
●ヒメジョオン	8.8	0.04	20	7.1	3.0	5.1
ク ズ	1.5	0.10	10	1.2	7.6	4.4
●シロツメグサ	1.0	0.10	10	0.8	7.6	4.2
ヨ モ ギ	5.0	0.02	10	4.1	1.5	2.8
●オオニシキソウ	2.0	0.02	10	1.6	1.5	1.6
スカシタゴボウ	2.4	0.004	10	1.9	0.0	0.8
オ オ バ コ	1.5	0.004	10	1.2	0.0	0.6
カ タ バ ミ	0.5	0.004	10	0.4	0.0	0.2



第2表・第3表の地点は、アカマツ林の里山を削り取った空地で、昭和50年当時は下の写真のような景観であった。



4年経過後、空地の西半分はアレチハナガサが優占(表2)東半分はヒメムカシヨモギ~オオアレチノギクが優占(3表)し、帰化率は種類数で48.3%・52.4%であるが優占度では77.2%・70.7%という高率であった。

第4表 木曾川の川原(中屋町)8月20日

ここでは水辺から提防に垂直に、1×1m<sup>2</sup>の方形区を1m間隔に10か所帯状に設けて測定した。

第4表

植 物 名	平 均		頻度	相対値		優占値 相対値 の和/2
	高さ	被度		高さ	被度	
●ヒメムカシヨモギ	49.9	0.58	90	100	100	100
●ケアリタソウ	12.9	0.37	60	25.9	63.8	44.9
●オオニシキソウ	13.3	0.36	60	26.7	62.1	44.4
ヤハズソウ	14.3	0.28	60	28.7	48.3	38.5
●オオアレチノギク	25.7	0.14	40	51.5	24.1	37.8
●アレチマツヨイグサ	17.7	0.22	30	35.4	37.9	36.7
メドハギ	13.2	0.20	10	26.5	34.5	30.5
●メリケンカルカヤ	8.3	0.08	50	16.6	13.8	15.2
イタドリ	4.5	0.10	10	9.0	17.2	13.1
●マメグンバイナズナ	8.7	0.05	50	17.4	8.6	13.0
アキノエノコログサ	6.8	0.02	10	13.6	3.4	8.5
メヒシバ	3.4	0.04	20	6.8	6.9	6.9
ムラサキエノコログサ	2.4	0.04	20	4.8	6.9	5.9
ヤナギタデ	2.0	0.04	20	4.0	6.9	5.5
カワラハハコ	1.2	0.01	20	2.4	1.7	2.1
●アメリカセンダングサ	1.1	0.004	10	2.2	0.7	1.5
イヌビエ	0.4	0.004	10	0.8	0.7	0.8



水辺にはヤナギタデが生育しているだけであったが、離れるに従いヤハズソウ・カワラハハコ・イタドリ等川原に在来のものもみられたが、17種中帰化種は8種で種類のにも多かった。それでも帰化率は種類数では47.1%であったが、優占度では72.4%の高率であった。

この地一帯の川原にはヒメムカシヨモギ・ケアリタソウ・オオニシキソウ・オオアレチノギク・アレチマツヨイグサ・メリケンカルカヤ・マメグン

ンバイナズナなどがごく普通であるが、オオキンケイギク・ムシトリナデシコ・マツバウンラン・アレチハナガサの群生地もみられ、シュッコンバーベナも生育していた。

第5表

植 物 名	平 均		頻度	相対値		優占地 相対値 の和/2
	高さ	被度		高さ	被度	
●メリケンカルカヤ	108.0	2.4	100	100	100	100
ヤハズソウ	12.0	0.74	60	11.1	30.8	21.0
ス ス キ	14.0	0.30	20	13.0	12.5	12.8
●オオアレチノギク	19.0	0.10	10	17.6	4.2	10.9
イチゴツナギ	18.0	0.11	70	16.7	4.5	10.6
マルバハギ	12.0	0.20	10	11.1	8.3	9.7
ネコハギ	5.7	0.15	50	5.3	6.3	5.8
アカマツ	8.0	0.04	20	7.4	1.7	4.6
●アレチヌスビトハギ	6.0	0.02	10	5.6	0.8	3.2
●シロツメクサ	0.8	0.004	10	0.7	0.2	0.5

第5表 宅地造成地の空地(松ヶ丘5)9月17日

10か所



里山を削り取った宅地造成地内で、周辺に家が立ち並んでいる未建築空地で、ススキ・マルバハギなどの山地性の植物もみられたが、メリケンカルカヤが優占度100、帰化率は種類数で40%、優占度で64%であった。最近目立つようになったアレチヌスビトハギも生育し、周辺部にはシナダレスズメガヤも群生していた。

第6表 飛行場東端沿いの草地(鵜沼三ツ池町)9月17日 10か所

航空自衛隊岐阜基地の東端柵沿いの簡易舗装道路わきの草地で、キダチコンギク・セイタカアワダチソウが目立って多いところである。優占度はキダチコンギク100、セイタカアワダチソウ22.6

第6表

植 物 名	平 均		頻 度	相 対 値		優 占 度 相対値 の和/2
	高 さ	被 度		高 さ	被 度	
●キダチコンギク	124.0	4.00	100	100	100	100
●セイタカアワダチソウ	46.0	0.32	40	37.1	8.0	22.6
ツルマメ	36.0	0.50	40	29.0	12.5	20.8
ノブドウ	35.0	0.50	50	28.2	12.5	20.4
ヨモギ	38.0	0.40	40	30.6	10.0	20.3
●アレチハナガサ	26.0	0.12	20	21.0	3.0	12.0
●アレチヌスビトハギ	14.5	0.20	20	11.7	5.0	8.4
ヤブガラシ	14.0	0.20	20	11.3	5.0	8.2
ヤハズソウ	9.7	0.23	50	7.8	5.7	6.8
カゼグサ	11.0	0.14	30	8.8	3.5	6.2
キンエノコログサ	12.7	0.06	40	10.2	1.5	5.9
アキエノコログサ	12.0	0.02	10	9.7	0.5	5.1
メヒシバ	9.0	0.10	20	7.3	2.5	4.9
●セイバンモロコシ	11.0	0.02	10	8.8	0.5	4.7
アオツツラフジ	5.5	0.02	10	4.4	0.5	2.5
●ヒメムカシヨモギ	4.0	0.02	10	3.2	0.5	1.9
●ブタクサ	3.5	0.02	20	2.8	0.5	1.7
●ヒメジョオン	2.5	0.04	20	2.0	1.0	1.5
エノコログサ	2.0	0.02	10	1.6	0.5	1.1

メヒシバ優占度80.2, ヨモギ71.2, チカラシバ15.9, オヒシバ12.8で、いわゆる田園地帯の路傍群落要素がかなり残されていた。しかし、帰化種のアレチハナガサの優占度は90.5, これにナガバギシギシ30.0, オオアレチノギク20.0, シマスズメノヒエ18.1, それにヒロハギシギシ・アカザ・オオクサキビ, ヘラオオバコなど帰化種は12種を数え、種類数で60.0%の高い帰化率を示し、優占度では48.0%の帰化率であった。



で、これにツルマメ・ノブドウ・ヨモギの在来種が続き、他にアレチハナガサ・アレチヌスビトハギ・セイバンモロコシ・ヒメムカシヨモギなどの帰化種が目立ち、19種中帰化8種と多く、種類数で42.1%, 優占度で59.9%の帰化率であった。

第7表 飛行場西側用水路わき草地(那加町)

8月20日 10か所

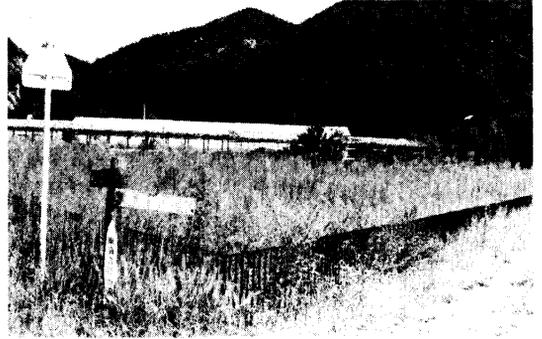
第7表

植 物 名	平 均		頻 度	相 対 値		優 占 度 相対値 の和/2
	高 さ	被 度		高 さ	被 度	
●アレチハナガサ	108.2	1.64	90	100	81.2	90.5
メヒシバ	65.4	2.02	100	60.4	100	80.2
ヨモギ	87.5	1.24	90	80.9	61.4	71.2
●ナガバギシギシ	41.2	0.44	60	38.1	21.8	30.0
アキエノコログサ	27.1	0.40	40	25.0	19.8	22.4
●オオアレチノギク	31.5	0.22	30	29.1	10.9	20.0
●シマスズメノヒエ	27.4	0.22	30	25.3	10.9	18.1
●ヒロハギシギシ	19.5	0.30	30	18.0	14.9	16.5
チカラシバ	17.2	0.32	30	15.9	15.8	15.9
オヒシバ	19.2	0.16	40	17.7	7.9	12.8
イヌビエ	13.3	0.12	20	12.3	5.9	9.1
●アカザ	13.8	0.10	20	12.8	5.0	8.9
●オオクサキビ	15.8	0.04	30	14.6	2.0	8.3
カモジグサ	9.5	0.01	20	8.8	0.5	4.7
●オオニシキソウ	7.1	0.04	20	6.6	2.0	4.3
ミチヤナギ	3.6	0.10	20	3.3	5.0	4.2
●ホソムギ	4.8	0.02	10	4.4	1.0	2.7
●ヘラオオバコ	4.5	0.02	10	4.2	1.0	2.6
●マツバゼリ	2.0	0.004	10	1.8	0.2	1.0
●アレチヌスビトハギ	2.0	0.004	10	1.8	0.2	1.0

第8表 山間部の埋立て畑（会本町）8月23日 10か所

第8表

植 物 名	平 均		頻度	相対値		優占度 相対値 の和/2
	高さ	被度		高さ	被度	
●オオアレチノギク	145.5	1.20	100	100	100	100
●ヒメムカシヨモギ	121.8	0.96	100	83.7	80.0	81.5
●ヒメジョオン	52.0	0.68	80	35.7	56.7	68.4
ヤナギタデ	43.0	1.15	100	29.6	95.8	62.7
メヒシバ	31.5	0.65	70	21.6	54.0	62.0
オヘビイチゴ	9.9	0.46	60	6.8	38.3	22.6
キンエノコロ	32.6	0.22	70	22.4	18.3	20.4
●オオニシキソウ	17.0	0.26	40	11.7	21.7	16.7
チゴザサ	16.5	0.18	50	11.3	15.0	13.2
カモシグサ	18.0	0.16	50	12.4	13.3	12.9
エノコログサ	7.0	0.10	10	4.8	8.3	6.6
ヨモギ	13.5	0.04	20	9.3	3.3	6.3
カタバミ	6.9	0.09	60	4.7	7.5	6.1
●シロザ	4.5	0.10	10	3.1	8.3	5.7
ツユクサ	7.0	0.06	30	4.8	5.0	4.9
●ケアリタソウ	9.0	0.02	10	6.2	1.7	4.0
スカシタゴボウ	5.0	0.04	20	3.4	3.3	3.4
●イヌビユ	5.0	0.02	10	3.4	1.7	2.6
エノキグサ	4.5	0.02	20	3.1	1.7	2.4
シソバツナミソウ	3.0	0.03	30	2.1	2.5	2.3
ニガナ	1.5	0.02	10	1.0	1.7	1.4
イヌタデ	1.0	0.02	10	0.7	1.7	1.2
コナスビ	0.6	0.004	10	0.4	0.3	0.4
ムラサキサギゴケ	0.5	0.004	10	0.3	0.3	0.3



東海自然歩道に沿った里山地内の畑を埋立てて放置された空地で、オオアレチノギク・ヒメムカシヨモギが優占し、景観的には平野部の休耕畑・空地等と類似している。24種中帰化7種で、帰化率は種類数では29.2%と低かったが、優占度では54.9%の高率であった。1年草の占める割合が、87.1%と高く埋立てが新しいことが読みとれた。

第9表 休耕畑（蘇原東栄町）9月17日 10か所  
第9表

植 物 名	平 均		頻度	相対値		優占度 相対値 の和/2
	高さ	被度		高さ	被度	
●セイトカアワダチソウ	255.0	4.0	100	100	100	100
ヘクソカズラ	107.0	0.84	100	42.0	21.0	31.5
ツルマメ	89.0	0.74	80	34.9	18.5	26.7
ツユクサ	45.9	0.94	80	18.0	23.5	20.8
ヨモギ	34.0	0.40	40	13.3	10.0	11.7
エノコログサ	15.5	0.22	30	6.1	5.0	5.8
コメヒシバ	9.1	0.16	40	3.6	4.0	3.8
●アレチヌスビトハギ	13.0	0.04	20	5.1	1.0	3.1
アオツツラフジ	9.5	0.02	10	3.7	0.5	2.1
イヌタデ	5.5	0.02	10	2.2	0.5	1.4
チカラシバ	5.0	0.02	10	2.0	0.5	1.3
イシミカワ	3.0	0.02	10	1.2	0.5	0.9
ササガヤ	1.5	0.02	10	0.6	0.5	0.6



この休耕畑は、景観的にはいたるところに見られる空地のセイトカアワダチソウ群生地である。周囲の畑は、芝生の栽培地として管理されている。セイトカアワダチソウの優占度100に対して、他にアレチヌスビトハギがわずかに現われるだけで、(頻度20%)種類数による帰化率は15.4%に過ぎなかったが、優占度では49.2%の帰化率であった。

それでも景観から受ける帰化種セイタカアワダチソウの繁殖振りを過少表現していると思われる。

第10表 提防上の道路わき草地(蘇原宮塚町) 第10表

第11表 同左 9月8日 いずれも10か所 第11表

植 物 名	平均		頻度	相対値		優占度
	高さ	被度		高さ	被度	
●アレチマツヨイグサ	157.3	2.10	100	100	100	100
ヤハズソウ	30.1	1.62	90	19.1	77.1	48.1
カゼクサ	44.5	0.86	90	28.3	41.0	34.7
●オオアレチノギク	51.7	0.12	60	32.9	5.7	19.3
カナムグラ	25.3	0.42	40	16.1	20.0	18.1
ヨモギ	33.9	0.30	60	21.6	14.3	18.0
ツルマメ	33.7	0.14	80	21.4	6.7	14.1
アキノエノコログサ	24.8	0.16	50	15.8	7.6	11.7
スギナ	17.5	0.18	50	11.1	8.6	9.9
●ヒメムカシヨモギ	26.4	0.04	50	16.8	1.9	9.4
ツクシハギ	12.5	0.22	20	7.9	10.5	9.2
●セイタカアワダチソウ	19.0	0.02	10	12.1	1.0	6.6
●ヒメジョオン	6.8	0.13	60	4.3	6.2	5.3
クズ	6.8	0.10	10	4.3	4.8	4.6
アキノノゲシ	8.2	0.02	10	5.2	1.0	3.1
スズメノヒエ	5.8	0.04	20	3.7	1.9	2.8
ササガヤ	5.9	0.03	40	3.8	1.4	2.6
カタバミ	6.0	0.20	30	3.8	1.0	2.4
ギョウギシバ	4.5	0.04	20	2.9	1.9	2.4
ネコハギ	3.3	0.20	20	2.1	1.0	1.6
ツユクサ	4.0	0.01	30	2.5	0.5	1.5
イシミカワ	3.3	0.01	20	2.1	0.5	1.3
スイバ	2.0	0.02	10	1.3	1.0	1.2
オヘビイチゴ	1.5	0.004	10	1.0	0.2	0.6

植 物 名	平均		頻度	相対値		優占度
	高さ	被度		高さ	被度	
クズ	91.4	4.00	100	100	100	100
カゼクサ	51.6	0.42	90	56.5	10.5	33.5
アキノエノコログサ	41.2	0.64	70	45.1	16.0	30.6
ヨモギ	43.5	0.46	60	47.6	11.5	29.6
ヤハズソウ	28.5	1.06	100	31.2	26.5	28.9
●ヒメムカシヨモギ	35.9	0.10	60	39.3	2.5	20.9
●オオアレチノギク	20.3	0.06	40	22.2	1.5	11.9
ママコノシリヌグイ	15.8	0.20	20	17.3	5.0	11.2
●オオクサキビ	13.0	0.02	20	14.2	0.5	7.4
メヒシバ	11.2	0.04	30	12.3	1.0	6.7
メドハギ	7.5	0.20	20	8.2	5.0	6.6
オヒシバ	10.6	0.05	40	11.6	1.3	6.5
●アレチハナガサ	10.5	0.02	10	11.5	0.5	6.0
ナワシロイチゴ	9.0	0.06	30	9.8	1.5	5.7
カナムグラ	7.5	0.02	10	8.2	0.5	4.4
ノアズキ	5.0	0.12	20	5.5	3.0	4.3
●ケアリタソウ	7.0	0.02	10	7.7	0.5	4.1
●アレチマツヨイグサ	6.0	0.02	10	6.6	0.5	3.6
イシミカワ	5.8	0.02	10	6.3	0.5	3.4
カタバミ	3.5	0.02	20	3.8	0.5	2.2
●シロツメクサ	1.5	0.004	10	1.6	0.1	0.9



境川提防最上端にあたる道路わきの草地に、道に沿って帯状に、それぞれ10か所の方形区を設けた。第10表の地は、アレチマツヨイグサの優占度100、24種中帰化5種、帰化率は種類数で20.8%優占度で42.8%であった。第11表は、それに接したクズの優占する群落で、21種中帰化7種で、帰化率は種類数で33.3%、優占度では16.7%と低く、カゼクサ・アキノエノコログサ・ヨモギ・ヤハ

ズソウなどの優占度が高かった。

第12表 舗装農道わき草地（西市場町）

9月9日 10か所

第12表

植 物 名	平均		頻度	相対値		優占地 相対値 の和/2
	高さ	被度		高さ	被度	
アキノエノコログサ	75.0	1.12	80	79.8	100	89.9
ヨモギ	73.0	1.02	80	77.7	91.1	84.4
●ヒメムカシヨモギ	94.0	0.74	70	100	66.1	83.1
メヒシバ	63.0	0.84	80	67.0	75.0	71.0
ツユクサ	56.0	0.78	100	59.6	69.6	64.6
●セイバンモロコシ	58.5	0.70	50	62.2	62.5	62.4
ドクダミ	15.6	0.66	80	16.6	58.9	37.8
●オオアレチノギク	35.0	0.14	30	37.2	12.5	24.9
チカラシバ	16.5	0.30	30	17.6	26.8	22.2
ヨメナ	30.0	0.10	50	31.9	8.9	20.4
●キダチコンギク	12.0	0.30	10	12.8	26.8	19.8
アキノノゲシ	20.5	0.12	20	21.8	10.7	16.3
ギョウギシバ	6.3	0.22	30	6.7	19.6	13.2
エノキグサ	17.5	0.06	30	18.6	5.4	12.0
●ヨウシュヤマゴボウ	7.0	0.10	10	7.4	8.9	8.2
カニクサ	4.0	0.10	10	4.3	8.9	6.6
●ホナガイヌビユ	5.0	0.02	10	5.3	1.8	3.6
ヒナタイノコズチ	4.0	0.02	10	4.3	1.8	3.1
イヌタデ	4.0	0.02	10	4.3	1.8	3.1
●ホソバシロザ	3.5	0.02	10	3.7	1.8	2.8



アキノエノコログサ・ヨモギの優占度が高く田園路傍群落の要素が強く見られたが、帰化率は種類数で35.0%、優占度で31.1%であった。ヒメムカシヨモギに次いで、帰化種ではススキに類似したセイバンモロコシ、それにキダチコンギクが注目された。

第13表 山間道路わきススキ群落（各務寒洞池北）

9月9日 10か所

第13表

植 物 名	平均		頻度	相対値		優占地 相対値 の和/2
	高さ	被度		高さ	被度	
ス ス キ	170.0	3.60	100	100	100	100
●オオアレチノギク	74.0	0.24	80	43.5	6.7	25.1
●ヒメムカシヨモギ	70.1	0.23	90	41.2	6.4	23.8
ヤハズソウ	22.5	0.16	90	13.2	4.4	8.8
●ダンドボロギク	20.6	0.12	30	12.1	3.3	7.7
ヨモギ	20.0	0.11	70	11.8	3.1	7.5
カタバミ	15.1	0.19	80	8.9	5.3	7.1
キツネノマゴ	14.8	0.16	80	8.7	4.4	6.6
アキノノゲシ	13.0	0.10	20	7.6	2.8	5.2
ノイバラ	7.0	0.02	10	4.1	0.6	2.4
●ヒメジョオン	4.8	0.07	50	2.8	1.9	2.4
メヒシバ	6.0	0.04	20	3.5	1.1	2.3
ヘクソカズラ	6.0	0.02	10	3.5	0.6	2.1
ハンノキ	4.0	0.02	10	2.4	0.6	1.5
ツユクサ	4.0	0.02	10	2.4	0.6	1.5
イヌタデ	4.0	0.004	10	2.4	0.1	1.3
スミレ	3.0	0.01	20	1.8	0.3	1.1
ジシバリ	0.7	0.04	20	0.4	1.1	0.8
エノキグサ	1.0	0.004	10	0.6	0.1	0.4



ススキが優占する里山地内、東海自然歩道沿いの草地であるが、帰化4種が混生していた。帰化率は、種類数で21.0%、優占度で28.5%であった。周辺部の道路ぎわには、セイトカアワダチソウ2株、メリケンカルカヤ数株が認められた。

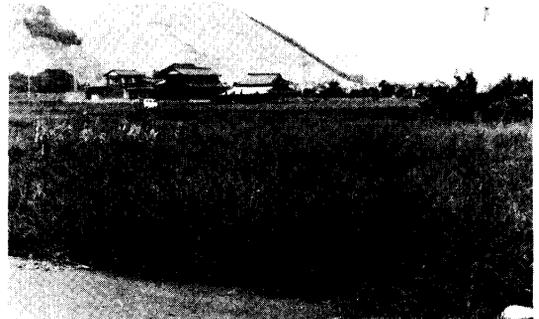
第14表 休耕畑（西市場町）9月18日 10か所

第14表

植 物 名	平 均		頻度	相対値		優占度 相対値 の和/2
	高さ	被度		高さ	被度	
メ ヒ シ バ	111.5	3.80	100	100	100	100
●ヒメムカシヨモギ	59.3	0.38	70	53.1	10.0	31.6
●オオアレチノギク	60.0	0.16	80	53.8	4.2	29.0
ツ ユ ク サ	32.0	0.58	70	28.7	15.3	21.9
イ ヌ タ デ	35.0	0.28	60	31.4	7.4	19.4
アキノノゲシ	33.5	0.30	30	30.0	7.9	19.0
コミカンソウ	22.3	0.28	70	20.0	7.4	13.7
キンエノコロ	22.0	0.12	30	19.7	3.2	11.5
コゴメガヤツリ	14.5	0.16	40	13.0	4.2	8.6
ク ワ ク サ	10.0	0.20	30	9.0	5.3	7.2
オ ヒ シ バ	12.0	0.12	20	10.8	3.2	7.0
イ ヌ ビ エ	14.0	0.04	20	12.6	1.1	6.9
イ シ ミ カ ワ	10.0	0.12	20	9.0	3.2	6.1
ス ギ ナ	6.0	0.22	30	5.4	5.8	5.6
●アメリカセンダングサ	8.5	0.10	10	7.6	2.6	5.1
エノキグサ	10.0	0.02	10	9.0	0.5	4.8
オニノゲシ	9.0	0.02	10	8.1	0.5	4.3
●セイタカアワダチソウ	7.0	0.02	10	6.3	0.5	3.4
コニシキソウ	5.1	0.06	40	4.6	1.6	3.1
ウシハコベ	5.5	0.04	20	4.9	1.1	3.0
カタバミ	1.8	0.10	10	1.6	2.6	2.1
●ナガイモ(栽培種)	3.1	0.04	20	2.8	1.1	2.0
タネツケバナ	3.5	0.02	20	3.1	0.5	1.8
チョウジタデ	3.0	0.004	10	2.7	0.1	1.4
スズメノエンドウ	2.5	0.01	20	2.2	0.3	1.3

ノキ・ネムノキ・コナラ・アカマツなどの高木、ヌルデ・ヒサカキ・ツツジ類の低木がみられ、アカマツの優占した斜面へと続いている。もともとは、里山へ入る山ぎわの道路で、ヒヨドリバナ・ノブドウ・チゴザサ・カミエビ・ヤマノイモ・ニガイチゴ・サルトリイバラ、ノコンギク・オカトラノオなど山地性草本が目立つところで、かつては日当りの草地にオミナエシ・キキョウ・リンドウなども生育していた。

出現種数も46種と多様な群落組成であるが、セイタカアワダチソウ優占度63.4、オオアレチノギク37.3、ヒメムカシヨモギ16.4、キダチコンギク13.6と、帰化種の侵入がみられ、帰化率は種類数で15.2%、優占度で23.4%であった。墓地内の土盛地にはツボミオオバコが群生し、道路下の裸地にはカナリークサヨシが認められた。



栽培種のナガイモが生育しており、1年生草本の占める割合が95%の高率であることから、休耕間もない畑であることが読みとれる。

メヒシバが優占度100、これに帰化種ヒメムカシヨモギ31.6、オオアレチノギク29.0が続き、他にツユクサ・イヌタデ・アキノノゲシ・コミカンソウ・キンエノコロなどが目立っていた。帰化率は、種類数で20.0%、優占度で21.6%といずれも低いが、この後1～2年で、表1の休耕畑のようなヒメムカシヨモギ・オオアレチノギクの優占する休耕畑へと移行していくものと考えられる。

第15表 山間道路わきソデ群落（那加北洞町）

8月25日 10か所

市営の火葬場墓地へ通ずる舗装道路沿いのソデ群落である。背後にはハン



第15表

植 物 名	平 均		頻度	相対値		優占度 相対値 の和/2
	高さ	被度		高さ	被度	
ヒヨドリバナ	109.0	2.40	80	100	100	100
●セイタカアワダチソウ	105.5	0.72	70	96.8	30.0	63.4
ノブドウ	53.5	1.00	80	49.1	41.7	45.4
チゴザサ	40.0	1.08	90	36.7	45.0	40.9
●オオアレチノギク	69.0	0.27	70	63.3	11.3	37.3
カミエビ	53.5	0.24	90	49.1	10.0	30.0
ヤマノイモ	46.0	0.38	70	42.2	15.8	29.0
ニガイチゴ	28.5	0.44	50	26.1	18.3	22.2
アキノウナギツカミ	33.0	0.12	60	30.3	5.0	17.7
ス ス キ	24.0	0.32	30	22.0	13.3	17.7
ノアズキ	11.0	0.60	30	10.1	25.0	17.6
●ヒメムカシヨモギ	33.5	0.05	40	30.7	2.1	16.4
●キダチコンギク	16.0	0.30	20	14.7	12.5	13.6
ク ズ	11.0	0.40	20	10.1	16.7	13.4
ヘクソカズラ	19.0	0.22	30	17.4	9.2	13.3
コチチミザサ	15.5	0.28	60	14.2	11.7	13.0
コバノカモメズル	24.0	0.06	40	22.0	2.5	12.3
●ケアリタソウ	23.3	0.06	30	21.4	2.5	12.0
ツユクサ	20.0	0.10	50	18.3	4.2	11.3
ツルマメ	15.0	0.14	30	13.8	5.8	9.8
ヌスビトハギ	11.5	0.20	20	10.6	8.3	9.5
スイカズラ	12.5	0.16	40	11.5	6.7	9.1
ノアザミ	17.0	0.06	30	15.6	2.5	9.1
サルトリイバラ	15.0	0.10	10	13.8	4.2	9.0
ツ タ	9.0	0.22	70	8.3	9.2	8.8
●アメリカセンダングサ	15.0	0.08	40	13.8	3.3	8.6
ノコンギク	13.0	0.12	20	11.9	5.0	8.5
ヨ シ	13.5	0.10	10	12.4	4.2	8.3
ヤハズソウ	9.5	0.14	30	8.7	5.8	7.3
ヌカキビ	10.0	0.10	10	9.2	4.2	6.7
ヤノネグサ	10.0	0.07	50	9.2	2.9	6.1
ノリウツギ	4.0	0.20	10	3.7	8.3	6.0
ハダカホウズキ	8.0	0.10	10	7.3	4.2	5.8
ムラサキシキブ	8.0	0.10	10	7.3	4.2	5.8
●ジュズダマ	10.0	0.02	10	9.2	0.8	5.0
ヤマウルシ	8.0	0.02	10	7.3	0.8	4.1
ノイバラ	5.0	0.02	10	4.6	0.8	2.7
マルバハギ	4.0	0.02	10	3.7	0.8	2.3
オカトラノオ	3.0	0.02	10	2.8	0.8	1.8
イヌタデ	3.2	0.01	20	2.9	0.4	1.7
ヤハズソウ	2.5	0.02	10	2.3	0.8	1.6

カタバミ	1.5	0.02	10	1.4	0.8	1.1
ネザサ	0.5	0.04	20	0.5	1.7	1.1
ヤナギタデ	0.5	0.02	10	0.5	0.8	0.7
ウシハコベ	0.3	0.02	10	0.3	0.8	0.6
コナスビ	0.4	0.004	10	0.4	0.2	0.3

第16表 木曾川河川敷松林内(下中屋町)

8月20日 5か所

第16表

植 物 名	平 均		頻度	相対値		優占度 相対値 の和/2
	高さ	被度		高さ	被度	
タマアジサイ	23.0	1.40	40	100	100	100
ミゾシダ	22.0	0.84	80	95.7	60.0	77.9
チヂミザサ	18.6	0.48	80	80.9	34.3	57.6
ヤマアジサイ	16.0	0.60	20	69.6	42.9	56.3
リョウメンシダ	10.0	0.80	20	43.5	57.1	50.3
ドクダミ	15.4	0.16	80	67.0	11.4	39.2
コヤブタバコ	16.0	0.04	20	69.6	2.9	36.3
ヤマノイモ	14.4	0.12	60	62.6	8.6	35.6
ハエドクソウ	12.6	0.05	40	54.8	3.6	29.2
ノブドウ	10.0	0.20	20	43.5	14.3	28.3
シラカシ	12.0	0.04	20	52.2	2.9	27.6
クサギ	9.0	0.20	20	39.1	14.3	26.7
ネザサ	6.0	0.24	40	26.1	17.1	21.6
エゴノキ	8.0	0.04	20	34.8	2.9	18.9
ミズヒキ	8.0	0.04	20	34.8	2.9	18.9
ヤブガラシ	5.8	0.12	60	25.2	8.6	17.1
ヒロハイヌワラビ	7.2	0.04	20	31.3	2.9	17.1
ヒメヤブラン	6.4	0.02	40	27.8	1.4	14.6
シヤガ	6.0	0.04	20	26.1	2.9	14.5
エノキ	6.0	0.04	20	26.1	2.9	14.5
ヒメワラビ	6.0	0.04	20	26.1	2.9	14.5
アラカシ	5.6	0.04	20	24.3	2.9	13.6
ヤマウルシ	6.0	0.01	20	26.1	0.7	13.4
イロハモミジ	4.4	0.02	40	19.1	1.4	10.3
サネカズラ	3.6	0.04	20	15.7	2.9	9.3
ヤブケマン	3.4	0.04	20	14.8	2.9	8.6
クラマゴケ	2.0	0.10	80	8.7	7.1	7.9
カラムシ	2.4	0.01	20	10.4	0.7	5.6
マンリョウ	1.6	0.01	20	7.0	0.7	3.9



第17表 アカマツ林内(会本町) 9月9日10か所

第17表

植 物 名	平 均		頻度	相対値		優占度 相対値の和/2
	高さ	被度		高さ	被度	
ヤマウルシ	52.4	1.04	100	87.6	100	93.8
ササクサ	59.8	0.60	100	100	57.7	78.9
ヤマツツジ	23.9	0.96	100	40.0	92.3	66.2
シシガシラ	24.7	0.90	60	41.3	86.5	63.9
サルトリイバラ	27.4	0.62	90	45.8	59.6	52.7
コバノガマズミ	33.0	0.40	90	55.2	38.5	46.9
ワラビ	22.0	0.54	50	36.8	51.9	44.4
ヒサカキ	25.0	0.36	100	41.8	34.6	38.2
モチツツジ	24.4	0.14	70	40.8	13.5	27.2
コバノミツバツツジ	12.8	0.32	50	21.4	30.8	26.1
ヤマザクラ	18.0	0.06	30	30.1	5.8	18.0
アカメガシワ	12.8	0.14	30	21.4	13.5	17.5
コウヤボウキ	13.1	0.10	50	21.9	9.6	15.8
フジ	6.6	0.20	20	11.0	19.2	15.1
クちなし	4.0	0.20	10	6.7	19.2	13.0
イヌツゲ	5.9	0.16	40	9.9	15.4	12.7
ノブドウ	9.8	0.08	40	16.4	7.7	12.1
マルバアオダモ	7.5	0.10	10	12.5	9.6	11.1
エノキ	10.5	0.04	20	17.6	3.8	10.7
テйкаカズラ	2.5	0.16	80	4.2	15.4	9.8
イソノキ	9.4	0.04	20	15.7	3.8	9.8
ヤブコウジ	5.5	0.09	70	9.2	8.7	9.0
アラカシ	4.5	0.10	10	7.5	9.6	8.6
コナラ	4.0	0.10	10	6.7	9.6	8.2
ナンキンナナカマド	4.0	0.10	10	6.7	9.6	8.2
ガンピ	4.0	0.10	10	6.7	9.6	8.2

ススキ	7.0	0.02	10	11.7	1.9	6.8
ウシコロシ	6.0	0.02	10	10.0	1.9	6.0
チヂミザサ	6.0	0.02	40	10.0	1.9	6.0
アカマツ	4.9	0.03	80	8.2	2.9	5.6
オオバトノボソウ	5.5	0.01	30	9.2	1.0	5.1
ネジキ	3.4	0.04	20	5.7	3.8	4.8
サワフタギ	2.9	0.04	20	4.8	3.8	4.3
タラノキ	4.0	0.02	10	6.7	1.9	4.3
ソヨゴ	2.5	0.04	20	4.2	3.8	4.0
carex 1 sp	3.5	0.02	10	5.9	1.9	3.9
ツタ	2.4	0.04	20	4.0	3.8	3.9
サカキ	3.2	0.02	10	5.4	1.9	3.7
ヤマノイモ	2.0	0.04	20	3.3	3.8	3.6
ノイバラ	3.0	0.02	10	5.0	1.9	3.5
ヒノキ	2.6	0.01	30	4.3	1.0	2.7
シハイスミレ	1.3	0.01	20	2.2	1.0	1.6
ジガバチソウ	1.3	0.004	10	2.2	0.4	1.3



図2に示したアカマツ林内では、全く帰化種は認められなかった。東海自然歩道(自動車通行可)沿いには、オオアレチノギク・ヒメムカシヨモギ・ダンドボロギク等の帰化種が散在していた。

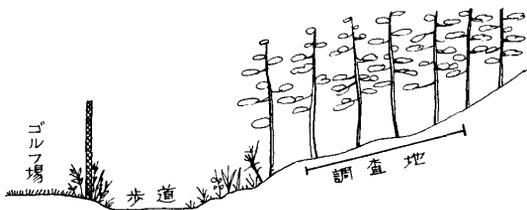


図2 アカマツ林の位置

第18表 シデコブシ林内(稲田園東) 8月23日10か所 第19表 雑木林内(須衛) 8月24日10か所

第18表

植 物 名	平 均		頻度	相対値		優占度 相対値 の和/2
	高さ	被度		高さ	被度	
サワシロギク	54.8	1.64	100	100	100	100
イヌツゲ	50.4	1.40	100	92.0	85.4	88.7
サワアザミ	28.0	1.24	100	51.1	75.6	63.4
サワフタギ	15.8	0.13	80	28.8	79.3	54.1
シデコブシ	33.6	0.44	80	61.3	26.8	44.1
ヒメシロネ	43.0	0.13	80	78.5	7.9	43.2
ヌマガヤ	39.0	0.20	100	71.2	12.2	41.7
カキラン	20.6	0.12	60	37.6	7.3	22.5
アギスミレ	9.4	0.36	100	17.2	22.0	19.6
ニッポンイヌノヒゲ	15.6	0.08	40	28.5	4.9	16.7
ミズギボウシ	14.0	0.12	60	25.5	7.3	16.4
ノリウツギ	14.0	0.08	40	25.5	4.9	15.2
ヤブコウジ	10.4	0.14	100	19.0	8.5	13.8
ヤマウルシ	13.0	0.05	40	23.7	3.0	13.4
ヘビノボラス	12.0	0.04	20	21.9	2.4	12.2
イソノキ	10.0	0.04	20	18.2	2.4	10.3
チヂミザサ	4.8	0.08	40	8.8	4.9	6.9
ヌマトラノオ	6.0	0.04	20	10.9	2.4	6.7
ショウジョウバカマ	4.0	0.08	40	7.3	4.9	6.1
ヤマツツジ	4.6	0.04	20	8.4	2.4	5.4
アオツツラフジ	4.0	0.04	20	7.3	2.4	4.9
サルトリイバラ	3.4	0.04	20	6.2	2.4	4.3
ノイバラ	3.6	0.02	40	6.6	1.2	3.9
ミツバアケビ	2.4	0.04	20	4.4	2.4	3.4
キッコウハグマ	1.2	0.04	20	2.2	2.4	2.3
ツルリンドウ	1.2	0.01	20	2.2	0.6	1.4
ミズゴケ	—	2.60	100	—	—	—

第19表

植 物 名	平 均		頻度	相対値		優占度 相対値 の和/2
	高さ	被度		高さ	被度	
ヤマウルシ	30.9	0.54	100	100	79.4	89.7
コウヤボウキ	20.0	0.68	80	64.7	100	82.4
マンサク	24.5	0.34	90	79.3	50.0	64.7
イヌツゲ	17.4	0.46	60	56.3	67.6	62.0
ウスノキ	17.2	0.38	60	55.7	55.9	55.8
シキミ	10.6	0.52	50	34.3	76.5	55.4
コバノガマズミ	13.5	0.24	40	43.7	35.3	39.5
ササクサ	13.8	0.09	60	44.7	13.2	29.0
タチドコロ	9.2	0.12	60	29.8	17.6	23.7
ヤマザクラ	9.5	0.06	30	30.7	8.8	19.8
ソヨゴ	5.2	0.11	30	16.8	16.1	16.5
ツタ	6.5	0.05	50	21.0	7.4	14.2
ヤブラン	6.5	0.04	20	21.0	5.9	13.5
ヤブコウジ	4.8	0.06	40	15.5	8.8	12.2
ヒサカキ	2.5	0.10	10	8.1	14.7	11.4
ジャノヒゲ	5.0	0.04	20	16.2	5.9	11.1
ミツバアケビ	4.6	0.03	30	14.9	4.4	9.7
テイカカズラ	3.1	0.03	40	10.0	4.4	7.2
ムラサキシキブ	3.5	0.02	10	11.3	2.9	7.1
ヤマツツジ	2.2	0.04	20	7.1	5.9	6.5
サワフタギ	3.0	0.02	10	9.7	3.0	6.4
イタドリ	3.0	0.02	10	9.7	3.0	6.4
サルトリイバラ	2.2	0.01	20	7.1	1.5	4.3
ラン科 1 sp.	1.4	0.01	20	4.5	1.5	3.0



以上第16~19表の4地点は、自然度区分7に相当する二次自然林で、市内では最も自然度の高い地域である。これらの群落組成種は一般的に多種で、しかも帰化種は全く侵入していなかった。

(2) 御岳山の場合

第20表 休耕畑, 小坂町麦島標高 680 m

7月28日 5か所

第20表

植 物 名	平 均		頻度	相対値		優占度 相対値 の和/2
	高さ	被度		高さ	被度	
●ヒメジョオン	137.0	2.40	100	100	100	100
●ヒメムカシヨモギ	133.6	1.60	100	97.5	66.7	82.1
ヤマヨモギ	72.0	1.40	80	52.6	58.3	55.5
ク ズ	17.6	1.00	60	12.8	41.7	27.3
イネ科 1 sp.	21.0	0.84	100	15.3	35.0	25.2
ゲンノショウコ	23.2	0.64	80	16.9	26.7	21.8
ヤブマメ	14.2	0.68	100	10.4	28.3	19.4
ツユクサ	15.0	0.29	80	10.9	12.1	11.5
クワクサ	10.0	0.26	80	7.3	10.8	9.1
ササガヤ	6.4	0.25	60	4.7	10.4	7.6
オカトラノオ	6.0	0.20	20	4.4	8.3	6.4
ミツバツグリ	3.2	0.24	40	2.3	10.0	6.2
アケビ	3.0	0.20	20	2.2	8.3	5.3
ツリフネソウ	8.0	0.02	40	5.8	0.8	3.3
スイバ	3.8	0.05	40	2.8	2.1	2.5

舗装道路に沿ったもと桑畑跡の空地である。

周辺はヒノキの人工林で、林床には、ヤマアジサイ・オオバギボウシ・イタドリ・ツリフネソウ・ヌスビトハギ・ナガバモミダイチゴ・ミズヒキ・アカソなどが多く、路傍

にはシロツメクサ・ムラサキツメの帰化種も普通に見られた。帰化率は、種類数では13.3%の低率であったが、ヒメジョオン・ヒメムカシヨモギが優占し、優占度では47.5%であった。



第21表 休耕畑, 朝日村胡桃島標高 1,080 m 7月23日 10か所

第21表

植 物 名	平 均		頻度	相対値		優占度 相対値 の和/2
	高さ	被度		高さ	被度	
●ヒメジョオン	128.5	1.90	100	100	86.4	93.2
●アレチマツヨイグサ	102.5	1.30	100	79.8	59.1	69.5
スギナ	41.5	2.20	100	32.3	100	66.2
●シロツメクサ	25.8	2.02	100	20.1	91.8	56.0
●ムラサキツメクサ	52.5	1.44	100	40.9	65.5	53.2
ヨモギ	51.5	0.90	80	40.1	40.9	40.5
●オオアワガエリ	53.0	0.52	50	41.2	23.6	32.4
ゲンノショウコ	35.5	0.58	100	27.6	26.4	27.0
オカトラノオ	30.0	0.52	40	23.3	23.6	23.5
ワラビ	31.0	0.40	30	24.1	18.1	21.1
●カモガヤ	25.0	0.12	20	19.5	5.5	12.5
スイバ	13.0	0.03	30	10.1	1.4	5.8
クリ	7.5	0.10	10	5.8	4.5	5.2
イ	7.0	0.10	20	5.4	4.5	5.0
ヤマハンノキ	6.5	0.10	10	5.1	4.5	4.8
ヨメナ	7.5	0.04	30	5.8	1.8	3.8
フシグロセンノウ	9.0	0.01	20	7.0	0.5	3.8

クリ・ミズナラ・カエデ類の二次林に囲まれた空地で、植林されたカラマツの低木が散在する草地である。

畝の凹凸が残っていることから、3年ほど前までは畑であったと考えられる。ヨモギ・ゲンノショウコ・オカトラノオ・ワラビ・フシグロセンノウなどの山地性草本、ミズナラ・クリ・シラカンバの幼木が見られるが、ヒメジョオン・アレチマツヨイグサが優占し、帰化率は種類数で27.6%、優占度で58.9%であった。



第21表 (続)

コウゾリナ	8.5	0.02	10	6.6	0.9	3.8
ミツバツチグリ	7.0	0.02	40	5.4	0.9	3.2
ツユクサ	5.3	0.02	20	4.1	0.9	2.5
シラカンバ	5.0	0.004	10	3.9	0.2	2.1
●ヒメムカシヨモギ	4.0	0.02	10	3.1	0.9	2.0
スゲ属 1sp.	4.0	0.01	20	3.1	0.5	1.8
●栽培菊の一品種	2.5	0.02	10	1.9	0.9	1.4
ミズナラ	2.0	0.02	10	1.6	0.9	1.3
ミミナグサ	2.0	0.004	10	1.6	0.2	0.9
コナスビ	1.0	0.004	10	0.8	0.2	0.5
イヌタデ	0.5	0.004	10	0.4	0.2	0.3
カタバミ	0.5	0.004	10	0.4	0.2	0.3

第22表 休耕畑, 21表の隣接地

第22表

植物名	平均		頻度	相対値		優占度 相対値の和/2
	高さ	被度		高さ	被度	
ススキ	99.0	2.90	100	100	100	100
●ヒメジョオン	98.0	1.22	90	99.0	42.0	70.5
●アレチマツヨイグサ	75.0	0.80	80	75.8	27.6	51.7
ヤマヨモギ	58.0	0.72	60	58.6	24.8	41.7
ノアザミ	51.0	0.52	50	51.5	17.9	34.7
●ムラサキツメクサ	36.5	0.54	80	36.9	18.6	27.8
ゲンノショウコ	29.0	0.48	90	29.3	16.6	23.0
アイズスゲ	35.5	0.25	60	35.9	8.6	22.3
クルマバナ	15.5	0.23	50	15.7	7.9	11.8
ニガナ	20.5	0.06	40	20.7	2.1	11.4
ケスゲ	18.0	0.12	70	18.2	4.1	11.2
●カモガヤ	20.0	0.04	20	20.2	1.4	10.8
ワラビ	17.0	0.12	30	17.2	4.1	10.7
ミツバツチグリ	14.3	0.16	90	14.4	5.5	10.0
ヨモギ	12.0	0.20	20	12.1	6.9	9.5
スギナ	14.0	0.11	40	14.1	3.8	9.0
ノコンギク	15.8	0.05	40	16.0	1.7	8.9
オオヤマフスマ	13.0	0.13	90	13.1	4.5	8.8
ヤマズメノヒエ	14.0	0.02	50	14.1	0.7	7.4
ウツボグサ	5.0	0.20	10	5.1	6.9	6.0
アキカラマツ	11.0	0.02	10	11.1	0.7	5.9
オオチドメ	8.0	0.07	60	8.1	2.4	5.3
リンドウ	9.0	0.01	20	9.0	0.3	4.7
ハクサンアザミ	7.0	0.02	20	7.1	0.7	3.9
イタドリ	7.0	0.02	10	7.1	0.7	3.9

フシグロセンノウ	6.0	0.02	10	6.1	0.7	3.4
ヨメナ	5.0	0.02	10	5.1	0.7	2.9
カタバミ	5.0	0.01	30	5.1	0.3	2.7
ウマノアシガタ	5.0	0.004	10	5.1	0.1	2.6
コメガヤ	5.0	0.004	10	5.1	0.1	2.6
アケビ	4.5	0.004	10	4.5	0.1	2.3
アマドコロ	4.0	0.004	10	4.0	0.1	2.1
ミツモトソウ	4.0	0.004	10	4.0	0.1	2.1
オトコヘシ	3.0	0.02	10	3.0	0.7	1.9
チゲケサシ	3.0	0.02	10	3.0	0.7	1.9
ノイバラ	3.0	0.004	10	3.0	0.1	1.6
ツリガネニンジン	3.0	0.004	10	3.0	0.1	1.6
ナワシロイチゴ	2.5	0.004	10	2.5	0.1	1.3
ヒメイズイ	2.0	0.004	10	2.0	0.1	1.1
コナスビ	1.5	0.004	10	1.5	0.1	0.8
ツユクサ	1.0	0.004	10	1.0	0.1	0.6

第21表調査地

に接する休耕畑で、10年ほど前までは桑畑であったところが放置された草地である。ほぼ毎年草刈りが行われている。ススキが優占し、出現種数も41と多い。ススキ型の山地草原の組成であるが、ヒメジョオン優占度70.5



アレチマツヨイグサ51.7で、帰化率は、種類数で9.8%、優占度で29.6%であった。

第23表 車道わきソテ群落 朝日村胡桃島 標高1,080 m 8月27日 8か所

第23表

植物名	平均		頻度	相対値		優占度 相対値の和/2
	高さ	被度		高さ	被度	
テキリスゲ	40.4	1.63	100	78.8	100	89.4

第23表 (続)

ナンブアザミ	51.3	0.78	88	100	47.9	74.0
キンミズヒキ	36.4	0.55	75	71.0	33.7	52.4
オオバコ	27.1	0.80	100	52.8	49.1	51.0
ユウガギク	37.8	0.46	75	73.7	28.2	51.0
ササガヤ	25.6	0.70	88	49.9	42.9	46.4
●ヒメジョオン	32.1	0.43	50	62.6	26.4	44.5
ゲンノショウコ	26.0	0.48	88	50.7	29.4	40.1
ミズタマソウ	28.0	0.33	63	54.6	20.2	37.4
アキカラマツ	26.9	0.28	38	52.4	17.2	34.8
ツリフネソウ	22.4	0.40	38	43.7	24.5	34.1
キツリフネ	28.0	0.20	50	54.6	12.3	33.5
ノコンギク	26.4	0.20	50	51.5	12.3	31.9
ヌスビトハギ	23.4	0.28	38	45.6	17.1	31.4
クルマバナ	24.1	0.15	75	47.0	9.2	28.1
アキノウナギツカミ	24.8	0.10	50	48.4	6.1	27.3
アオミズ	20.0	0.23	63	39.0	14.1	26.6
●ムラサキツメクサ	20.0	0.18	38	39.0	11.0	25.0
アカネ	15.8	0.30	50	30.8	18.4	24.6
ウマノアシガタ	15.4	0.25	75	30.0	15.3	22.7
カラハナソウ	16.3	0.20	50	31.8	12.3	22.1
シシウド	13.3	0.25	25	25.9	15.3	20.6
アカソ	15.8	0.15	25	30.8	9.2	20.0
カタバミ	13.0	0.23	63	25.3	14.1	19.7
ヤブジラミ	15.8	0.11	63	30.8	6.7	18.8
アケビ	10.1	0.21	63	19.7	12.9	16.3
●シロツメクサ	12.0	0.13	75	23.4	8.0	15.7
ツユクサ	13.9	0.06	38	27.1	3.7	15.4
イタドリ	7.8	0.25	25	15.2	15.3	15.3
タチツボスミレ	6.4	0.28	38	12.5	17.2	14.9
ヤマヨモギ	12.5	0.05	25	24.4	3.1	13.8
フキ	7.1	0.15	25	13.8	9.2	11.5
シデシャジン	7.5	0.13	13	14.6	8.0	11.3
ヨモギ	9.6	0.05	25	18.7	3.1	10.9
ミツバツチグリ	5.3	0.15	25	10.3	9.2	9.8
ヒヨクソウ	9.1	0.03	25	17.7	1.8	9.8
チダケサシ	8.1	0.05	25	15.8	3.1	9.5
ウツギ	7.5	0.05	25	14.6	3.1	8.9
ボタンズル	6.5	0.05	25	12.7	3.1	7.9
●オオアワガエリ	6.3	0.03	13	12.3	1.8	7.1
ノブキ	5.8	0.03	13	11.3	1.8	6.6
ヤマブドウ	5.0	0.03	13	9.7	1.8	5.8
ツリガネニンジン	5.0	0.03	13	9.7	1.8	5.8

トモエソウ	4.4	0.03	13	8.6	1.8	5.2
ミツモトソウ	3.8	0.03	13	7.4	1.8	4.6
オオヤマフスマ	3.1	0.01	25	6.0	0.6	3.3
テリハノイバラ	2.3	0.03	13	4.5	1.8	3.2

第21・22表の調査地のわきを通る舗装自動車道沿いの山ぎわのソデ群落で、背後の斜面はシラカンバの自然林及びカラマツの人工林となっている。優占度がテキリスケ89.4 ナンブアザミ74.0 キンミズヒキ52.4 オオバコ51.0 ユウガギク51.0 と在来種が高い。出現種数も47と多く、帰化種は4、帰化率は種類数で8.5% 優占度で8.2%であった。

第24表 カラマツ人工林内、朝日村胡桃島  
標高1.090 m 7月29日 5か所

第24表

植物名	平均		頻度	相対値		優占度 相対値の和/2
	高さ	被度		高さ	被度	
トリアシショウマ	133.0	4.00	100	100	100	100
オオバギボウシ	37.6	0.80	80	28.3	20.0	24.2
アケビ	20.0	1.00	100	15.0	25.0	20.0
オオヤマフスマ	14.8	0.88	100	11.1	22.0	16.6
ウツギ	30.0	0.40	40	22.6	10.0	16.3
アキノキリンソウ	30.0	0.24	40	22.6	6.0	14.3
オヤマボクチ	23.0	0.40	40	17.3	10.0	13.7
シラヤマギク	27.0	0.24	40	20.3	6.0	13.2
ヌスビトハギ	27.0	0.24	40	20.3	6.0	13.2
クルマバナ	23.6	0.32	80	17.7	8.0	12.9
ニガバナ	19.0	0.40	40	14.3	10.0	12.2
フタリシズカ	15.6	0.40	40	11.7	10.0	10.9
ミズナラ	15.0	0.40	40	11.3	10.0	10.7
シシウド	18.0	0.20	20	13.5	5.0	9.3
ツボスミレ	10.6	0.41	60	8.0	10.3	9.2
ヤマウルシ	14.0	0.24	40	10.5	6.0	8.3
ヨツバヒヨドリバナ	13.6	0.20	20	10.2	5.0	7.6
ツリフネソウ	18.0	0.04	20	13.5	1.0	7.3
キクムグラ	10.2	0.25	60	7.7	6.3	7.0
シシガシラ	9.0	0.20	20	6.8	5.0	5.9
シオデ	7.0	0.20	20	5.3	5.0	5.2
スミレ属 1 sp.	5.0	0.04	20	3.8	1.0	2.4

第24表 (続)

イ タ ド リ	6.0	0.01	20	4.5	0.3	2.4
エンコウカエデ	4.0	0.01	20	3.0	0.3	1.7
ヤマホタルブクロ	3.6	0.01	20	2.7	0.3	1.5
チゴユリ	2.0	0.01	20	1.5	0.3	0.9

第23表調査地

のソデ群落に続く北東向傾斜角20°の斜面のカラマツ人工林内である。



ある。トリアシショウマの優占する林床で、帰化種は全く認められなかった。表に出なかった林床植物としては、ヤマヨモギ・アキカラマツ・アマドコロ・ノアザミ・ウツボグサ・ツリガネニンジン・ゼンマイ・オトコヘシ・キンミズヒキ・オカトラノオ・ノコンギク・ヤマガシユウなどが認められた。植林後20年ほど経過している林床である。

表25表 スキー場内の草地, 小坂町濁河 標高1,690 m 7月27日 5か所

第25表

植 物 名	平均		頻度	相対値		優占度 相対値の和/2
	高さ	被度		高さ	被度	
ヤナギラン	115.0	3.00	100	100	100	100
●ヒメジョオン	110.6	1.01	100	96.1	33.7	64.9
ゴ マ ナ	92.2	0.64	80	80.2	21.3	50.8
ニ ワ ト コ	60.0	1.40	80	52.2	46.7	49.5
ツボスミレ	20.2	2.40	100	17.6	80.0	48.8
サワギク	54.0	0.48	80	47.0	16.0	31.5
シナノキイチゴ	24.2	0.80	80	21.0	26.7	23.9
ヤマハハコ	23.0	0.61	60	20.0	20.3	20.2
ヘビノネゴザ	13.4	0.40	40	11.7	13.3	12.5
タラノキ	12.6	0.46	40	11.0	13.3	12.2
ササ属1 sp.	10.0	0.40	40	8.7	13.3	11.0
シシウド	12.0	0.20	20	10.4	6.7	8.6
ミヤマワラビ	10.6	0.08	40	9.2	2.7	6.0
タカネマスクサ	10.0	0.04	20	8.7	1.3	5.0
ミゾソバ	6.0	0.01	20	5.2	0.3	2.8



亜高山帯の針葉樹林伐採跡地に作られた国設のスキー場である。夏の間はヨツバヒヨドリバナ・ゴマナ・ハンゴンソウ・キオン・ノアザミ・ヤマハハコ・ニガナ（白花・黄花）等が咲き乱れる高茎草原のお花畑で、他にフキ・テキリスゲ・クサイ・フサガヤ・イタドリが目立って多い。このス

キー場内に、北方寒地性植物のヤナギランの群生地が散在しているので、本測定はそのヤナギラン群落内に設けた。出現種15種のうち帰化はヒメジョオン1種（優占度64.9）で、帰化率は、種類数で6.7%、優占度で14.5%であった。スキー場内で認められた帰化種は、この他ではムラサキツメクサ・カモガヤがあり計3種であった。

第26表 舗装道路わき草地 小坂町濁河温泉 標高1,760 m, 7月27日 5か所

亜高山帯針葉樹林内に開けた温泉地で、旅館前を通る車道舗装道路沿いの草地である。ほぼ車道の終点に近く、背後は、天然更新中のシラビソ・アオモリトドマツ・コメツガ・ダケカンバ等の若い森林（標高5 m前後）である。

第26表

植 物 名	平 均		頻度	相対値		優占度 相対値 の和/2
	高さ	被度		高さ	被度	
ゴ マ ナ	74.0	1.80	100	66.7	100	83.4
●ヒメジョオン	111.0	1.00	100	100	55.6	77.8
ヨ モ ギ	61.0	1.60	100	55.0	88.9	72.0
オ オ バ コ	27.0	1.80	100	24.3	100	62.2
●シロツメクサ	18.6	1.60	80	16.8	88.9	52.9
キツネノボタン	44.0	0.52	100	39.6	28.9	34.3
イ	35.0	0.48	80	31.5	26.7	29.1
ヒロハコメススキ	20.0	0.48	20	18.0	22.2	20.1
ク ル マ バ ナ	16.0	0.24	40	14.4	13.3	13.9
ス ミ レ	10.0	0.28	60	9.0	15.6	12.3
●エゾノギシギシ	15.0	0.20	20	13.5	11.1	12.3
テ キ リ ス ゲ	10.0	0.20	20	9.0	11.1	10.1
ク サ イ	8.0	0.04	20	7.2	2.2	4.7
ヤマハハコ	6.0	0.04	20	5.4	2.2	3.8
イ タ ド リ	4.0	0.04	20	3.6	2.2	2.9
ミツバツチグリ	1.0	0.01	20	0.9	0.6	0.8

周辺には、ノリクラアザミ・オニシモツケなどの大型草本、コマガタケスグリ・ムシカリ、などの低木類も見られた。ゴマナ83.4、ヨモギ72.0と在来種の優占度が高いが帰化率は種類数で18.8%、優占度で29.0%であった。



小坂町・朝日村のどちらからも濁河温泉までは車道が通じているが、道沿いにヒメジョオン、アレチマツヨイグサ、シロツメクサ、ムラサキツメ

クサは、この濁河温泉まで登っている。

第27表 旅館跡地 小坂町濁河温泉

標高1,810 m 7月26日5か所

明治期より続いていた岳の湯旅館が、下の車道沿いの地へ移転した跡地で、現在はベンチが設けられた登山者のための休憩広場となっている。車道の終点から徒歩で約2分ほどの谷の対岸にあたるところで、周辺にはシラビソの高さ2~3mの若い木、ヤマハンノキ(高さ5~6m)がみられノリクラアザミ・オニシモツケの群生地に囲まれている。

この広場はシロツメクサ・オオバコの優占地で帰化率は種類数で33.3%、優占度で41.7%であった。この周辺部には他にカモガヤ・ヒメジョオンが認められ、この2種の帰化種はこの地が飛驒側登山道沿いの最高生育地であった。

第28表 キャンプ場草地 小坂町濁河温泉

標高1,830 m 7月26日5か所

徒歩登山道沿いに設けられた野営地で、天然更新中の若い針葉樹林に囲まれた平坦地である。周辺部には、ノリクラアザミ・ヨツバヒヨドリバナ・ヤグルマソウ・モミジカラマツ・ゴゼンタチバナ・ミヤマシグレ・ミヤマアキノキリンソウ・ヤマブキシヨウマなどが見られ、表以外ではムラサ

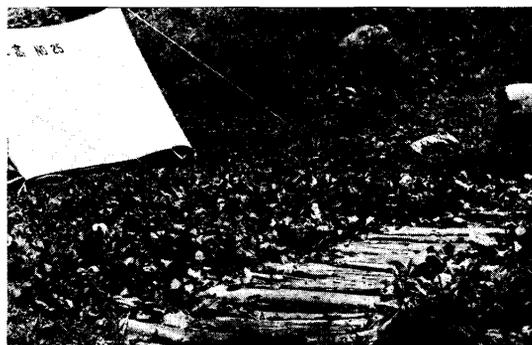
第27表

植 物 名	平 均		頻度	相対値		優占度 相対値 の和/2
	高さ	被度		高さ	被度	
●シロツメクサ	12.8	3.40	100	100	100	100
オ オ バ コ	12.6	3.20	100	98.4	94.1	96.3
スズメノカタビラ	8.0	1.20	100	62.5	35.3	48.9
●エゾノギシギシ	5.0	0.28	40	39.1	8.2	23.7
フ キ	5.2	0.08	40	40.6	2.4	21.5
ク マ イ チ ゴ	1.4	0.04	20	10.9	1.2	6.1



第28表

植物名	平均		頻度	相対値		優占度 相対値の和/2
	高さ	被度		高さ	被度	
オオバコ	10.4	3.80	100	63.4	100	81.7
テングクワガタ	5.0	3.40	100	30.5	89.5	60.0
クサイ	16.4	0.06	80	100	1.6	50.5
スズメノカタビラ	7.8	0.84	100	47.6	22.1	34.9
●エゾノギシギシ	6.0	0.60	60	36.6	15.8	26.2
●シロツメクサ	2.0	0.20	20	12.2	5.3	8.8
ヨモギ	1.4	0.04	20	8.5	1.1	4.8



キツメクサの帰化が認められた。

なお、このキャンプ場より高所の徒歩登山道及びその周辺には、全く帰化種は認められなかった。人里植物のオオバコは、標高1,900 mまでは小群生で道路上に生育し、最高地点は、少し離れた標高2,200 mの1株であった。

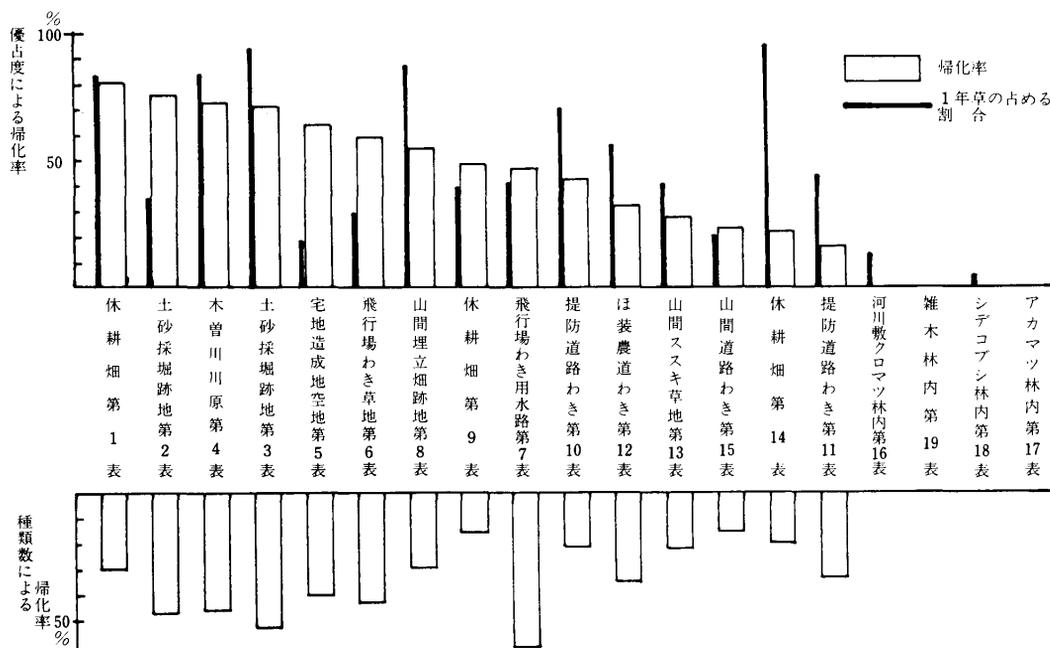


図3 各務原市内における場所ごとの帰化率

### 5 .まとめと今後の課題

各務原市及び御岳山における草本群落（森林内の場合は林床草本層）の方形区調査を行った結果から、次のようなことが明らかになった。

#### (1) 各務原市の場合

①二次的な自然林であっても、里山のアカマツ林内・コナラ～アベマキを主とした雑木林内・シデ

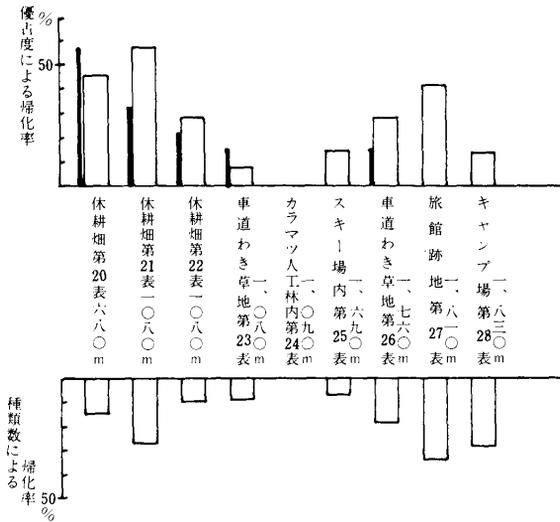


図4 御岳山における場所ごとの帰化率

各務原市内よりも少ないが、休耕畑の優占度による帰化率は50~60%の高率で、各務原市内山間部空地と変わらない帰化種の優占である。

②帰化植物の生育地は、自然に一度人が加わったところだけに限られており、車道沿いに、ヒメジョオン・アレチマツヨイグサ・シロツメクサ・ムラサキツメクサ・カモガヤは山を登り、飛驒側登山道沿いでは、標高1,830mのキャンプ場が帰化種の最高生育地で、それより高い徒歩登山道路沿いには全く生育していない。

③北に隣接する乗鞍岳は、高山帯（ハイマツ林地帯）までスカイラインが開設され、<sup>つら</sup>法面に播種されたイネ科の外来種・シロツメクサが生き残って生育し、亜高山帯針葉樹林内からハイマツ帯に致るまで、スカイラインわきにはシロツメクサ・ムラサキツメクサ・アレチギシギシ・オオアワガエリ等が生育しているのに比べ、御岳山では車道終点に近い濁河キャンプ場までしか帰化種は生育しておらず、車道開設という人為によって、帰化種の生育地を作り出していることは明らかである。

(3) 今後の課題

- ①岐阜県内産帰化植物の資料収集を進める中で、より完全な岐阜県産帰化植物目録づくりを行う。
- ②キダチコンギク・アレチハナガサ・ハルジョオン・マツバウンラン・アレチヌスビトハギその他、少しでも多くの種の分布の変動を記録し、情報の収集・蓄積をする。
- ③生活型が類似していたり、分類学的に近縁な帰化種どおし、あるいは帰化種と在来種との分布の変動・その生態的なしくみの違いなどを追求する。

参 考 文 献

- ①沼田真編 植物生態の観察と研究 東海大学出版会 26-30 39-55
- ②同 上 植物生態野外観察の方法 築地書館 23-28 47-68
- ③水野端夫他 乗鞍スカイライン沿線植物群落の変遷学術調査報告書 岐阜県 昭和53年

コブシの生える湿地・川原の松林など、在来種による植物社会が残されている地域には、帰化植物は全く生育していない。

②里山の土砂採掘跡地・休耕畑・埋立て地・宅地造成地の空地など、自然に手を加え一度裸地にしたところは、帰化種が優占し、その帰化率は種類数で50%前後、優占度で70%前後の高率である。

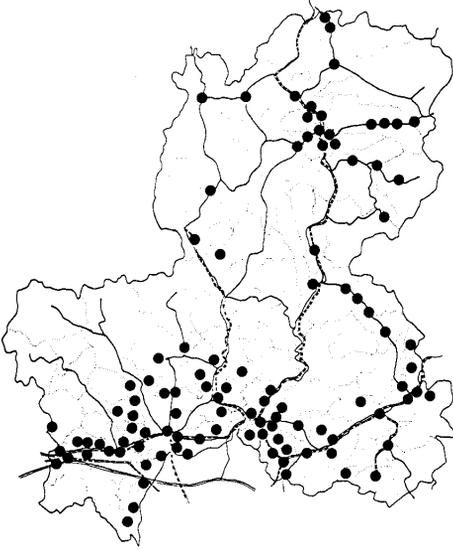
③狭い範囲内での帰化率の算出は、種類数によるよりも優占度によった方が、場所ごとの比較のためには有効である。

④優占度による帰化率は、人手のより多く加わったところほど高率で、自然に対する人為の影響度をうまく反映している。

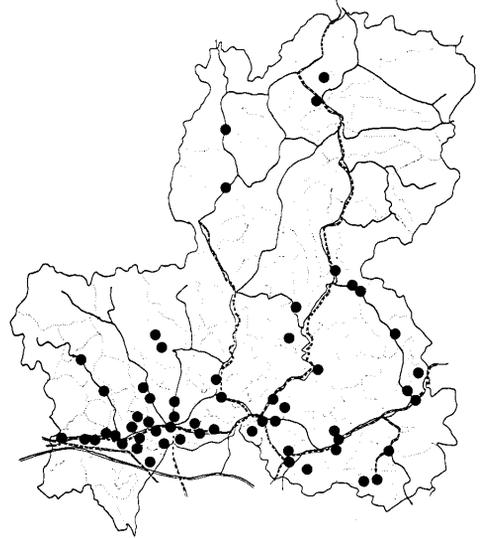
(2) 御岳山の場合

低山帯の人里地域では、帰化植物の種類は、

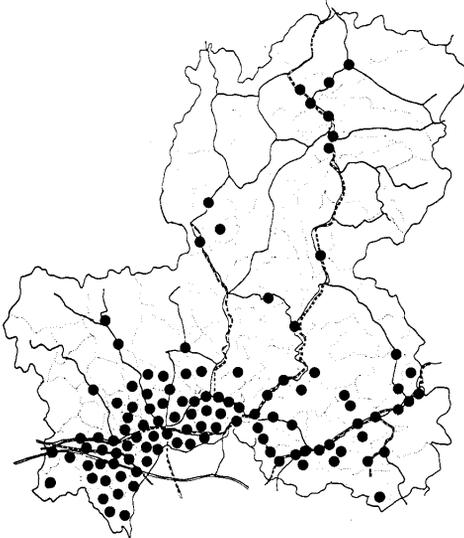
★以下の分布図は、岐阜県内における、分布の変動しつつある帰化植物の1979年の時点での分布現  
状である。資料不足でもれている分布地も多いと考えられるが、入手できた確実な分布地だけを記  
してある。



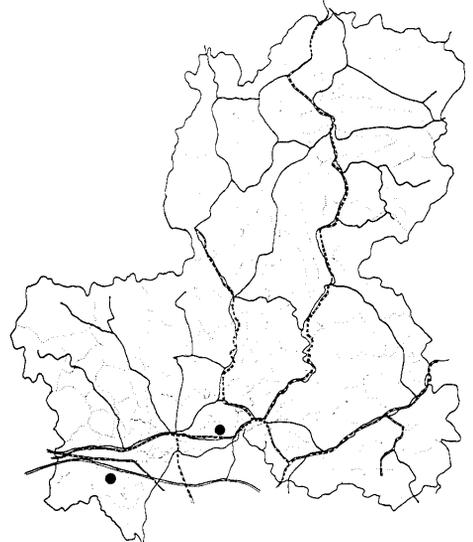
セイヨウタンポポ



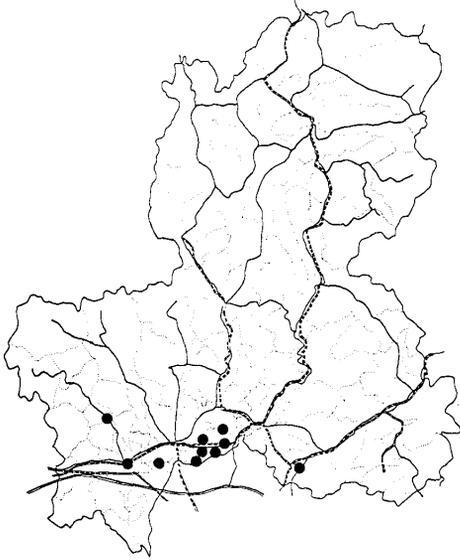
アカミタンポポ



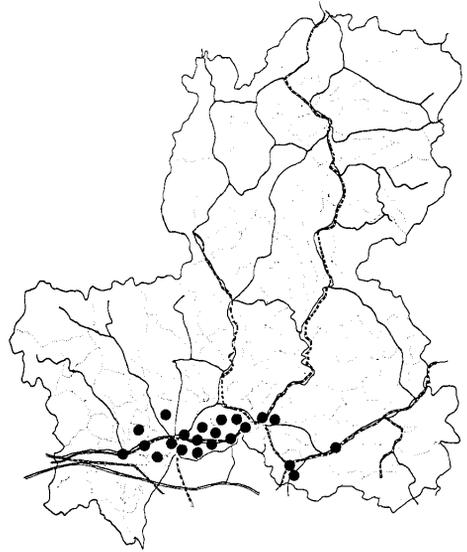
セイトカアワダチソウ



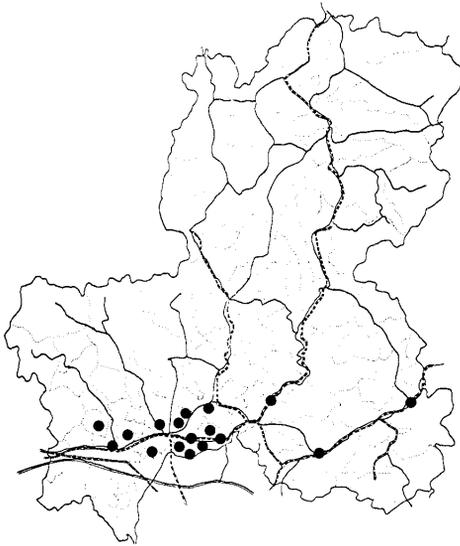
シオザキノ



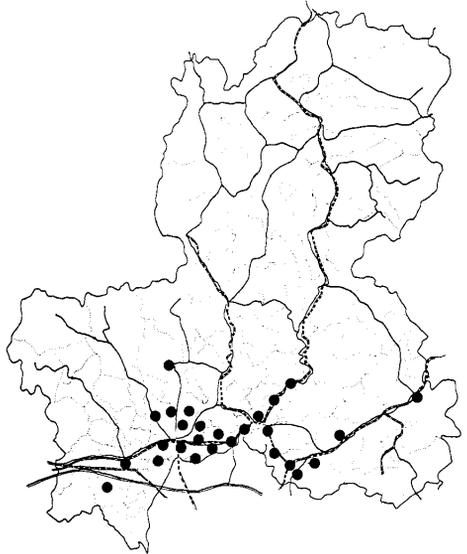
アレチハナガサ



キダチコンギク



マツバウンラン



アレチヌスビトハギ

## 付 岐阜県産帰化植物目録

かつては「帰化植物は文明開化のバロメーター」と言われ、今では「帰化植物は自然破壊のバロメーターである。」とまで言われている。

しかし、岐阜県下における帰化植物の生態はもとより、帰化植物相すら全く調査されていない。昭和54年度に、文部省科学研究費補助金を得て県下の帰化植物の生態調査を行った際に作成したもので、岐阜県産帰化植物仮目録といったものである。

◎昭和54年度（1979年）の時点で、岐阜県内に産することが知られている帰化植物のリストで、史前・旧帰化植物は含まれず、狭義の帰化植物に限ってある。

◎目録作成に当たっては、山本保雄・香田寿男・森栄一郎・中村健治・拓植厚一・平林史孝・多賀中主・伊佐治要衛・刈谷忠の各氏その他、県下の諸先生方の長年の観察記録による御協力を得た。

◎同定上疑問のある植物も含まれ、またもれた植物も多いと考えられる。今後より完全な目録を作成するための基礎資料としたい。

◎学名・配列は、長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社）

一部は、長田武正「日本帰化植物図鑑」（北隆館）に従った。

◎これをチェックリストとして活用され、生育地の記録、生育の状態の記録、新しい帰化種の追加、等々に役立ててほしい。

◎地方植物誌（植物相）の目録づくりには、標本が欠け保管されていないことが多く、科学上の基本的な欠点とされている。標本を残され岐阜県博物館までおとどけいただきたい。

## き く 科

*Taraxacum officinale* WEBER

*laevigatum* DC.

*Hypochoeris radicata* L.

*Sonchus oleraceus* L.

*asper* (L.) HILL

*Lactuca scariola* L.

*Carduus crispus* L.

*Silybum marianum* GAERT.

*Centaurea solstitialis* L.

*Chrysanthemum leucanthemum* L.

*Achillea millefolium* L.

*Anthemis arvensis* L.

*Matricaria inodora* L.

*Aster novi-belgii* L.

*pilosus* WILLD.

*subulatus* MICHX.

*exilis* ELL

*sp.*

セイヨウタンポポ

アカミタンポポ

ブタナ

ノゲシ

オニノゲシ

トゲチシャ

ヒレアザミ

オオアザミ

イガヤグルマギク

フランスギク

セイヨウノコギリソウ

キゾメカミツレ

イヌカミツレ

ユウゼンギク

キグチコンギク

ホウキギク

オオホウキギク

ヒロハホウキギク

<i>Erigeron bonariensis</i> L.	アレチノギク
<i>sumatrensis</i> RETZ.	オオアレチノギク
<i>canadensis</i> L.	ヒメムカシヨモギ
<i>pusillus</i> NUTT.	ケナシヒメムカシヨモギ
<i>annuus</i> (L.) PERS.	ヒメジョオン
<i>philadelphicus</i> L.	ハルジョオン
<i>Bidens pilosa</i> L.	コセンダングサ
var. <i>minor</i> (BLUME) SHERFF	シロノセンダングサ
<i>biternata</i> (LOUR) MEPR et SHERFF	センダングサ
<i>bipinnata</i> L.	コバノセンダングサ
<i>frondosa</i> L.	アメリカセンダングサ
<i>Solidago altissima</i> L.	セイタカアワダチソウ
var. <i>leiophylla</i> FERN.	オオアワダチソウ
<i>Helianthus tuberosus</i> L.	キクイモ
<i>helianthoides</i> (L.) SWEET	キクイモモドキ
<i>Rudbeckia hirta</i> L.	キヌガサギク
<i>laciniata</i> L.	オオハンゴンソウ
var. <i>hortensis</i>	ハナガサギク
<i>Coreopsis lanceolata</i> L.	オオキンケイギク
<i>drummondii</i>	キンケイギク
<i>tinctoria</i> NUTT.	ハルシャギク
<i>Guizotia abyssinica</i> (L. f.) CASS.	キバナタカサブロウ
<i>Galinsoga ciliata</i> (RAF.) BLAKE	ハキダメギク
<i>parviflora</i> CAV.	コゴメギク
<i>Grassocephalum crepidioides</i> (BENTH) S. MOORE	ベニバナボロギク
<i>Erechtites hieracifolia</i> (L.) RAF.	ダンドボロギク
<i>Senecio vulgaris</i> L.	ノボロギク
<i>Eupatorium fortunei</i> TURCZ.	フジバカマ
<i>Tagetes minuta</i> L.	シオザキソウ
<i>Gnaphalium purpureum</i> L.	タチチチコグサ
var. <i>spathulatum</i> (LAM.) BAKER	チチコグサモドキ
<i>Ambrosia artemisiaefolia</i> L.	
var. <i>elatior</i> (L.) DESC.	ブタクサ
<i>trifida</i> L.	オオブタクサ
<i>Xanthium strumarium</i> L.	オナモミ
<i>canadense</i> MILL.	オオオナモミ
<i>italicum</i> MORETTI	イガオナモミ
<i>Cosmos sulphureus</i> CAV.	キバナコスモス
<i>bipinnatus</i> CAV.	コスモス
<i>Gymura japonica</i> MAK.	サンシチソウ

キキョウ科

*Specularia perfoliata* (L.) A. DC.

キキョウソウ

ウリ科

*Sicyos angulatus* L.

アレチウリ

オミナエシ科

*Valerianella olitoria* (L.) POLL.

ノジシャ

アカネ科

*Diodia teres* WALT.

オオフトバムグラ

オオバコ科

*Plantago lanceolata* L.

ヘラオオバコ

*virginica* L.

ツボミオオバコ

ゴマノハグサ科

*Lindernia dubia* -L.) PENNELL

アメリカアゼナ

*Linaria canadensis* (L.) DUM.

マツバウンラン

*vulgaris* L.

ホソバウンラン

*Verbascum thapsus* L.

ピロードモウズイカ

*Veronica persica* POIR.

オオイヌノフグリ

*arvensis* L.

タチイヌノフグリ

ナス科

*Datura stramonium* L.

シロバナチョウセンアサガオ

*Solanum pseudo-capsicum* L.

タマサンゴ

*carolinense* L.

ワルナスビ

*nigrum* L.

イヌホオズキ

*americanum* MILL.

アメリカイヌホオズキ

*photeinocarpum* NAKAI et ODA

テリミノイヌホオズキ

*Physalis angulata* L.

センナリホオズキ

*Nicandra physalodes* (L.) PERS.

オオセンナリ

シソ科

*Lamium purpureum* L.

ヒメオドリコソウ

*Mentha spicata* L.

*var. crispa* BENTH.

オランダハッカ

**クマツツラ科**

*Verbena brasiliensis* VELL.  
*rigida* SPRENG.

アレチハナガサ  
シュッコンバーベナ

**ムラサキ科**

*Lithospermum arvense* L.  
*Myosotis scorpioides* L.  
*Symphytum officinale* L.

イヌムラサキ  
ワスレナグサ  
ヒレハリソウ

**ヒルガオ科**

*Convolvulus arvensis* L.  
*Ipomoea purpurea* (L.) ROTH.  
*coccinea* L.  
*nil* ROTH

セイヨウヒルガオ  
アルバアサガオ  
マルバルコウ  
アサガオ

**セリ科**

*Apium leptophyllum* (PERS.) F. MUELL.

マツバゼリ

**アカバナ科**

*Oenothera stricta* LEDEB. ex LINK  
*erythrosepala* BORBAS  
*biennis* agg.  
*laciniata* HILL

マツヨイグサ  
オオマツヨイグサ  
アレチマツヨイグサ  
コマツヨイグサ

**オトギリソウ科**

*Hypericum patulum* THUNB.

キンシバイ

**アオイ科**

*Malva sylvestris* L.  
*var. mauritiana* (L.) BOISS  
*moschata* L.  
*neglecta* WALLR.  
*Malvastrum coromandelianum* (L.) GARCKE  
*Abutilon theophrasti* MEDICUS  
*Sida spinosa* L.

ゼニアオイ  
ジャコウアオイ  
ゼニバアオイ  
エノキアオイ  
イチビ  
アメリカキンゴジカ

**トウダイグサ科**

*Euphorbia maculata* L.  
*supina* RAFIN.

オオニシキソウ  
コニシキソウ

ア マ科

*Linum virginianum* L.

キバナマツバニンジン

カタバミ科

*Oxalis corymbosa* DC.

ムラサキカタバミ

*articulata* SAVIGNY

イモカタバミ

*bowiei* LINDL.

ハナカタバミ

フウロソウ科

*Geranium carolinianum* L.

アメリカフウロ

*Erodium cicutarium* L' HÉR.

オランダフウロ

*botrys* (CAV.) BERTOL.

ツノミオランダフウロ

マ メ科

*Desmodium paniculatum* (L.) DC.

アレチヌスビトハギ

*rigidum* (ELL.) DC.

アメリカヌスビトハギ

*Trifolium repens* L.

シロツメクサ

*pratense* L.

ムラサキツメクサ

*hirtum* ALL.

ピロードツメクサ

*hybridum* L.

タチオランダゲンゲ

*glomeratum* L.

ダンゴツメクサ

*campestre* SCHREB.

クスマツメクサ

*dubium* SIBTH.

コメツブツメクサ

*Melilotus suaveolens* LEDEB.

シナガワハギ

*alba* MEDICUS

シロバナシナガワハギ

*Medicago polymorpha* L.

ウマゴヤシ

*lupulina* L.

コメツブウマゴヤシ

*minima* (L.) BARTAL.

コウマゴヤシ

*arabica* (L.) HUDS.

モンツキウマゴヤシ

*sativa* L.

ムラサキウマゴヤシ

*Vicia villosa* ROTH

ピロードクサフジ

*Amorpha fruticosa* L.

イタチハギ

*Ulex europaeense* L.

ハリエニシダ

*Robinia pseudoacacia* L.

ハリエンジュ (ニセアカシア)

ベンケイソウ科

*Sedum mexicanum* BRITT.

メキシコマンネングサ

*lineare* THUNB.

オノマンネングサ

**アブラナ科**

<i>Rapistrum rugosum</i> (L.) ALL.	ミヤガラシ
<i>Sisymbrium altissimum</i> L.	ハタザオガラシ
<i>officinale</i> (L.) SCOP.	カキネガラシ
<i>Descurainia sophia</i> (L.) WEBB ex PRANTL	クジラグサ
<i>Nasturtium officinale</i> R. BR.	オランダガラシ
<i>Lepidium perfoliatum</i> L.	コシミノナズナ
<i>virginicum</i> L.	マメグンバイナズナ
<i>Thlaspi arvense</i> L.	グンバイナズナ
<i>Barbarea vulgaris</i> R. BR.	ハルザキヤマガラシ

**キンポウゲ科**

<i>Anemone hupehensis</i> LEM.	
<i>var. japonica</i> (THUNB.) BOWLES et STEARN	シュウメイギク

**ナデシコ科**

<i>Silene gallica</i> L.	シロバナマンテマ
<i>var. quinquevulnera</i> (L.) KOCH	マンテマ
<i>armeria</i> L.	ムシトリナデシコ
<i>dichotoma</i> EHRH.	ホザキマンテマ
<i>Dianthus armeria</i> L.	ノハラナデシコ
<i>Petrorhagia nanteuilii</i> (BURNAT) P.W. BALL et HEYWOOD	
	イヌコモチナデシコ
<i>Vaccaria pyramidata</i> MEDICUS	ドウカンソウ
<i>Saponaria officinalis</i> L.	サボンソウ
<i>Stellaria media</i> (L.) VILLAVS	コハコベ
<i>Cerastium glomeratum</i> THUILL.	オランダミミナグサ
<i>Spergularia rubra</i> (L.) J. et C. PRESL.	ウスベニツメクサ
<i>Spergula arvensis</i> L.	
<i>var. sativa</i> (BOENN) KOCH	オオツメクサ

**スベリビユ科**

<i>Portulaca pilosa</i> L.	ヒメマツバボタン
----------------------------	----------

**ザクロソウ科**

<i>Mollugo verticillata</i> L.	クルマバザクロソウ
--------------------------------	-----------

**ヤマゴボウ科**

<i>Phytolacca esculenta</i> VAN HOUTTE	ヤマゴボウ
<i>americana</i> L.	アメリカヤマゴボウ

## オシロイバナ科

*Mirabilis jalapa* L.

オシロイバナ

## ヒユ科

*Celosia argentea* L.

ノゲイトウ

*Amaranthus retroflexus* L.

アオゲイトウ

*patulus* BERTOL.

ホソアオゲイトウ

*spinosus* L.

ハリビユ

*mangostanus* L.

ヒユ

*palmeri* WATS.

オオホナガアオゲイトウ

*viridis* L.

ホナガイヌビユ

*lividus* L.

イヌビユ

*deflexus* L.

ハイビユ

## アカザ科

*Atriplex hastata* L.

ホコガタアカザ

*Chenopodium ficifolium* SMITH

コアカザ

*album* L.

シロザ

*ambrosioides* L.

ケアリタソウ

*var. anthelminticum* (L.) A. GRAY

アメリカアリタソウ

*Kochia scoparia* (L.) SCHRAD.

ホウキギ

## タデ科

*Fagopyrum cymosum* MEISN.

シャクチリソバ

*Polygonum orientale* L.

オオケタデ

*multiflorum* THUNB.

ツルドクダミ

*convolvulus* L.

ソバカズラ

*Rumex acetosella* L.

ヒメスイバ

*crispus* L.

ナガバギシギシ

*obtusifolius* L.

エゾノギシギシ

*conglomeratus* MURR.

アレチギシギシ

## クワ科

*Cannabis sativa* L.

アサ

## アヤメ科

*Iris pseudoacorus* L.

キショウブ

*Sisyrinchium atlanticum* BICKN

ニワゼキショウ

*graminoides* BICKN

アイイロニワゼキショウ

*Tritonia crocosmaeflora* LEMOINE

ヒメヒオウギズイセン

ヒガンバナ科

<i>Lycoris squamigera</i> MAXIM.	ナツズイセン
<i>Narcissus tazetta</i> L.	
<i>var. chinensis</i> ROEM.	スイセン
<i>Zephyranthes grandiflora</i> LINDL.	サフランモドキ

ユリ科

<i>Brodiaea uniflora</i> ENGLER	ハナニラ
<i>Ornithogalum tenuifolium</i> GUSS.	ホソバオオアマナ

ミズアオイ科

<i>Eichhornia crassipes</i> SOLMS-LAUB	ホテイアオイ
--	--------

イネ科

<i>Sorghum halepense</i> PERS.	セイバンモロコシ
<i>Briza minor</i> L.	ヒメコバンソウ
<i>maxima</i> L.	コバンソウ
<i>Bromus catharticus</i> VAHL	イヌムギ
<i>Paspalum dilatatum</i> POIR.	シマスズメノヒエ
<i>Phleum pratense</i> L.	オオアワガエリ
<i>Anthoxanthum odoratum</i> L.	ハルガヤ
<i>Eragrostis curvula</i> (SCHRAD) NEES	シナダレスズメノヒエ
<i>cilianensis</i> (ALL) V. LUT.	スズメガヤ
<i>Holcus lanatus</i> L.	シラゲガヤ
<i>Panicum dichotomiflorum</i> MICHX.	オオクサキビ
<i>Agrostis alba</i> L.	コヌカグサ
<i>Dactylis glomerata</i> L.	カモガヤ
<i>Arrhenatherum elatius</i> (L.) J. et C. PRESL	オオカニツリ
<i>Coix lachryma-jobi</i> L.	ジュズダマ
<i>Agropyron repens</i> (L.) P. BEAUV.	シバムギ
<i>Avena fatua</i> L.	カラスムギ
<i>Andropogon virginicus</i> L.	メリケンカルカヤ
<i>Festuca arundinacea</i> SCHREB.	オニウシノケグサ
<i>elatior</i> L.	ヒロハノウシノケグサ
<i>myuros</i> L.	ナギナタガヤ
<i>Lolium perenne</i> L.	ホソムギ
<i>multiflorum</i> LAM.	ネズミムギ
<i>Phalaris canariensis</i> L.	
<i>minor</i> RETZ.	ヒメカナリークサヨシ
<i>Poa pratensis</i> L.	ナガハグサ